

(1) I類（情報系）の設置理念

確かな基礎学力を基盤とし、主体的な学びにより高度な専門知識を修得し、急速に発展する先端技術について、身につけた広い視野と知識で課題を探究し、解決することのできる実践的応用力と継続的な学び習慣を持つ人材を育成する。学科に相当する教育組織として類を設置している。

高度情報化社会の発展に不可欠なコンピュータの基礎とその先進的応用、情報数理の基礎的な知識と応用力を身に付け、さらに、社会における情報の偏在性、情報形態の多様化、情報活用領域の拡大、といった情報環境の変遷に対応して、「人と人」、「人と社会」等のコミュニケーションの高度化を通じた社会の発展を目指し、情報の応用・活用分野を進展させることができる技術者の養成を目的とする。

コンピュータ科学と情報数理を中心とする情報分野における基礎知識とその応用について教育した上で、情報を応用・活用するという側面に重点をおいた実践的教育を行う。特に、「工学的な情報」のみならず、「人間や社会に関する情報」も教育の対象に取り込み、3年次以降には「メディア情報学」、「経営・社会情報学」、「情報数理工学」「コンピュータサイエンス」の4つの教育プログラム（専門プログラム）を設置して教育を展開し、社会を支える新たな情報技術の創成を担う人材を育成する。

(2) 教員養成に対する理念・構想

「情報理工学域」では、比較的広い領域を覆う「類」を設置し、1年次前学期はできるだけ幅広い知識を身に付けるための教育組織を設定したことにより、情報と理工を融合させた視野の広い教員を養成する構想である。数学、理科、情報学といった互いの隣接領域についての理解を深める教育は、教員養成にも生かされ、創造的な思考力をもつ教員を養成することを可能としている。学生は所属する類にて、中学・高等学校1種免許状が取得できることとする。

(3) 教職課程の設置趣旨

「情報数理工学」「コンピュータサイエンス」「メディア情報学」「経営・社会情報学」の4つの教育プログラムが設置されるI類（情報系）では、中学校・高等学校の数学と高等学校の情報科の1種免許状を取得できる教育内容をもつ。

・「数学」（高等学校）

高度な数学の専門的知識を身に付け、応用的な数学と社会での数学の活用について実践的な領域まで踏み込んだ内容を教えることができる数学教員を養成する。

・「数学」（中学校）

数学の基礎領域のみならず応用的および関連領域にも幅広いプログラムを持つ本学では、中学生に数学の基礎的知識を教えるのみならず、数学の楽しさを教え、数学

をどのように社会で活用されているかを教えることのできる数学科教員を養成する。

・「情報科」(高等学校)

教育の情報化と情報教育の推進のため、情報分野における基礎知識の活用と応用領域の拡大に対応できる情報科教員を養成する。コンピュータ科学と情報数理を中心とする情報分野における基礎知識とその応用の教育により、「情報の科学」を深く教えることができる教員養成をするとともに、人間や社会に関する情報も教育対象とすることから、「社会と情報」も十分教えることができる。また情報技術の基礎となる数学に強い情報科教員を養成する。